

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500208		
法人名	医療法人エム・エム会		
事業所名	ぐるーぷほーむ九嶺		
所在地	呉市本通1丁目1-1 メガネ橋プラザ4階 (電話) 0823-22-9090		
自己評価作成日	平成28年10月17日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500208-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500208-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>呉駅より徒歩圏内ということもあり、家族等の面会の利便性も良く、利用者が穏やかに生活している。協力医院がリハビリテーション病院であり、希望者は外来でリハビリ通院し、歩行訓練等を実施している。誕生日会や季節毎の行事を実施し、利用者のご自身のペースで日々安心して、楽しく過ごせるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>駅より徒歩5～6分に位置しており交通の便が良く、事業所は協力病院に隣接するマンションの4階にある事から、明るく開放的で日当たりも良好である。協力病院はリハビリテーション病院であり、利用者は希望であれば職員の支援により、週に2日～3日程度の通いでリハビリテーションを継続する事が出来る。事業所の方針として、グループホームでの生活が困難(例えば寝たきり、常時オムツ対応等)と判断した場合は、利用者の意向を確認の上、母体法人の病院、連携福祉施設などへ紹介し、住み替えの支援をしている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	掲示板に掲示し、常に意識するよう心がけている。毎月の職員会議で理念に基づいた行動ができているかの確認を行っている。	毎月の職員会議において、理念に基づいた実践が出来ているかどうかを議題として確認している。直近月の会議においては、自立という観点から、夜間もトイレでの排泄が実行できているかについて、話し合いをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のボランティアの団体に依頼し、踊りや歌等の披露をしていただき、交流を深めている。	事業所の場所が商業圏域である事と、4階に位置している事で、近所との交流はほとんど無いので、知り合いを介してボランティアに来ていただく等の努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等を通じて、地域の人々へ事業所や利用者への理解を深めていただいている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で、家族や行政、地域の方々からいただいた意見は、積極的に取り入れるようにしている。	出席者から意見や要望が出ないので、事業所の近況報告やお知らせをしている。出席率を高める事を目的として、誕生日会と同日に開催するなどの努力をしている。	開催にはいろいろ工夫をされ、情報の伝達をされているが、ご家族や、外部の出席者から意見、要望、感想など発言が出易い工夫をしていただき、更に効果的な会議になることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	情報交換を積極的に行い、関係は良好であるように思う。	地域包括支援センターとの連携については、運営推進会議で行っている。今後、必要な事項が発生すれば、報告、相談も積極的にしていくこととしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事故の起こる可能性の高い利用者に関しては家族の承諾を得て、時間帯によって抑制をさせてもらうこともあるが、原則は身体拘束を行わないケアを行っている。</p>	<p>立位、立ち上がり不安定で、転倒の危険性が高い利用者には、車椅子着座時に固定ベルトを本人、家族の了解を得て行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内・外の研修や職員ミーティング等で学ぶ機会を設けている。また、職員間で注意し合える環境づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内・外の研修やミーティング等で学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族に解りやすい言葉で説明することを心がけ、理解を得た後、書面で同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者や家族からの要望は、できる限り施設運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>利用開始時と必要が生じた時、説明している。同一法人の病院窓口でも受け付ける事としているが、今のところ利用者や家族から要望や意見は出ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングや月に1度の職員会議の場を設けている。 月に1回、職員会議を開催し、意見や提案を言い出しやすい雰囲気作りや情報交換に努めるよう努力している。	毎日のミーティング、月に1度の職員会議において、職員の意見を聴くようにしている。最近は特に意見も要望も出ていないようで、事例について聴取する事は出来なかった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の公休希望はなるべく容認するよう努力している。 職員が意見や提案を発言しやすい雰囲気作りを努めるよう努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内・外の研修に、積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修の参加等により、同業者との交流の機会を設けている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前の段階で本人や家族の要望等把握し、介護計画に取入れるようにしている。また、相談窓口を設け、相談しやすい環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>本人や家族からの要望や不安点等を聞き入れ、双方が納得できるよう話し合いの場を設ける等の工夫をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用を開始する前の段階より、十分に話し合いの場をもつよう心がけている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人が安心して生活できるよう、職員の言葉がけや態度には注意をしている。また利用者から学ばせていただくという、尊厳の気持ちで対応するよう心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族には近況報告等を含め、積極的にコミュニケーションを行っている。また、誕生日会等の行事には家族の積極的な参加を促している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の関係者の訪問に関しては歓迎している。また、再度訪問していただけるような空間作りに配慮している。</p>	<p>管理者は、来客者に対しておもてなしの心で接するように、常に職員に指導している。外出の支援については、家族の協力があればいつでも可能としているが、事業所で安心して暮らしていただく為には、職員が利用者と家族のように良い関係を作り、接し方が重要であると考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事や行事の際には利用者同士のコミュニケーションが円滑に行えるよう対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当施設退所後も、可能な範囲で近況を確認するようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が、何でも発言しやすい環境作りに努めている。また、本人の言動や表情の変化を観察し、希望や意向の把握するよう努力している。	一人ひとりと会話する時間の確保に努めているが、聴き出せない人や真意が汲み取れない場合もある。家族から聴き取り、本人の表情や態度、その日の状態で判断する事としている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前に、可能な範囲で生活歴に関する情報の収集を行い、日常生活の中で生活歴が反映されるよう工夫するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の性格や生活のペースに配慮しながら、可能な範囲で洗濯や配膳等を行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、スタッフ等関係者と、積極的なコミュニケーションを行い、いただいた要望等は、介護計画に反映させるよう努力している。</p>	<p>家族には面会時に積極的に話しかけて、話を聴くようにしている。かかりつけ医、リハビリスタッフから情報を集め、介護計画に反映するよう取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録簿や職員間の連絡ノートで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族のニーズは、可能な限り対応していけるよう、職員ミーティング等で検討し、改善するよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>本人の趣味などを活かすような、地域資源の開発に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医に関しては、本人や家族に選択していただいている。かかりつけ医とは情報共有を行い、連携を密にしている。</p>	<p>本人や家族の要望により、かかりつけ医の選択が出来るようにしている。近隣のかかりつけ医は、月2回の往診と緊急時の訪問にも対応が可能となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>職場内の看護師や訪問看護師と、積極的な情報交換を行い、利用者へ反映できるよう努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者や家族等と連絡を取り合い、利用者の現状把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用前の時点で本人、家族の要望等を聴き、当施設でどこまでの支援が可能であるか等の話し合いの場を設けている。利用中の場合はその都度、本人、家族の意向を聴きながら、話し合いを行うようにしている。</p>	<p>事業所の方針として、看取り期の介護はしないという方針の下、利用時に説明をしている。常時、おむつや寝たきりの状態になれば、かかりつけ医に相談の上、次の利用先の支援をしている。医療が必要と診断された場合は、母体病院へ入院する場合もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内・外の研修等で、定期的な訓練を実施している。また、急変時や、事故発生時のマニュアルを作成している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>施設内・外の研修等で、定期的な訓練を実施している。また、災害時のマニュアルを作成している。</p>	<p>災害の対応に向け、年2回の避難訓練をしている。ビル全館での防火管理者と共同して、住民との連携を取るようになっているが、参加者は多くないのが現状である。防災意識の向上に向けて、消防大会に参加している。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊重やプライバシーに関しては、最大限の配慮を行い、声かけや対応を行っている。	年に1回は、外部研修に参加する事としており、事業所内においては、日々の介護の中で、大きな声で話しかけない、指示、命令的な言動にならないようなど、管理者は人格の尊重を重んじた指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	率直な質問を頂けるよう、意識して声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望により、入浴時間をずらす等、可能な範囲で、本人のペースに沿えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る衣服等は、なるべく本人に選択していただくよう支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備や片付け等が可能な利用者には、行ってもらっている。季節に応じた食事の提供等にも配慮している。	希望があれば、一緒に外食が出来るようにしている。法人全体でメニュー作成から、調理までしており、事業所においては温め、盛り付け、炊飯が主となっている。行事食としてのメニューの工夫、食器を陶器にするなど、温かみのある食事の提供に努力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量や水分量等は細めに記録を行い、摂取量等が少ない場合には、管理栄養士等に意見を求めるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを促し、困難な利用者には職員が支援を行い、清潔が保たれるよう配慮している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表へ記録し、本人の排泄パターンの把握に努めている。また、トイレでの自己での排泄が継続できるよう、訓練もを行っている。</p>	<p>夜間の排泄もトイレであることを基本としており、ポータブルトイレの使用はしないで誘導している。トイレの表示は大きく、低く、解り易く表示してある。常時、オムツ対応の状態になった時は、他の施設への紹介、支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄表にて排便の有無の確認を行っている。また、希望者には毎日オリゴ糖を摂取してもらい、腸内環境を整える等の工夫を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は、原則週2回で設定しているが、利用者の気分や体調等で、曜日変更や時間帯変更等の工夫を行っている。</p>	<p>自宅の浴槽に入れる人を対象とした造りとなっていることから、現在は9人がシャワーのみの入浴となっている。脱衣室を保温し、寒くならない工夫をしている。</p>	<p>入浴に対する個々のニーズについて、再調査し、入浴を楽しめる支援に向けて、環境整備等の検討をされる事により、更に充実した支援が提供できることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	生活習慣、本人の体調や気分の変化により、休息を促すなどの対応をしている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	個別に服薬ケースを用意し、誤飲や飲み忘れのないよう支援している。内服の説明書は保管し、職員が確認できるようにしている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	行事や日々のレクリエーションが、利用者の特技や趣味を取り入れたものとなるよう努力をしている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	散歩等の外出支援を行い、気分転換に努めている。また、本人の外出希望が強く、職員での対応が困難な場合には家族に連絡し、外出支援の協力を依頼することもある。	遠方への外出は支援に限度があることから、家族の支援があればいつでも外出が出来るようにしている。リハビリテーションに通う事が定期化している利用者は、外出の機会としても捉えて、同行支援をしている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	小額のお金はお預かりしている。出納帳で個人のお金を管理しており、本人の希望時等、必要時は使用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	希望時には支援を行っている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に応じた飾りや季節の花等を取り入れ、利用者が四季を感じることができるよう配慮している。また、施設内の清掃は原則毎日実施し、清潔にも配慮している。	季節の行事に合った飾りつけや、写真の展示がしてある。居室、居間の採光と風通し、見晴らしも良好で開放感がある。コーナーにソファを置くなど、ゆっくり出来る空間作りに工夫がされている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食事時やレクリエーション時の席の配置等は配慮している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室は本人の好みに合わせ、ある程度自由に設定していただいている。	吐き出し窓が広く取ってあることから、明るく風通しがよい。私物の持ち込みなど、個人の要望を重視して、室内の配置をしている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	施設内はバリアフリーの作りになっており、車イスの利用者でも自由に移動できるよう、動線を確保している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ぐるーぷほーむ九嶺

作成日 平成29年1月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	入浴に対する個々のニーズについて、再調査し、入浴を楽しめる支援に向けて環境整備等検討し、更に充実した支援が出来るようにする。	再度個々の身体状況、入浴に関するニーズを調査し、入浴を楽しんでいただけるよう改善する。それに伴い環境を整え安全安楽に努める。	入浴前のバイタルチェックの徹底や洗身後、可能な方は浴槽に入っていた様にし、立位保持困難な利用者は二名対応で行う。	3ヶ月
2	4	運営推進会議において、家族や外部の出席者から意見、要望、感想など発言が出易い工夫をし更に効果的な会議になるようにする。	参加しやすい雰囲気作りに努め、わかりやすい議題を準備し家族から意見や要望、感想を引き出し 日々のケアに活かせるようにする。	毎月の職員会議で次回の運営推進会議の議題案を募り職員全員で取り組む。また家族の面会時、気になることは無いがさりげなく話題にしてみる。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。